

テーマ1：新庁舎設計コンセプトについて

公園都市“清瀬”を象徴する緑あふれるコンパクト庁舎 “緑と一体になった、サステナブル庁舎”の実現

- 環境負荷の低減はもとより、災害時においても機能を発揮し社会の変化に柔軟に対応する持続可能な庁舎とします。
- 基本理念に則り、誰にとっても安心安全で、社会の変化に柔軟に対応できる、長く愛される庁舎を具現化します。
- 緑化、高断熱化、庇、堅型外部ルーバーなど、外観にその機能美が表れる計画とします。

1. 緑のプロムナードを軸とした市民・地域とつながる庁舎

基本理念の強化

- ◆ 清瀬市のシンボルであるけやき通りから“緑のプロムナード”を敷地内に連続させることで、清瀬の市民・地域とつながる庁舎とします。
- ◆ “緑のプロムナード”を軸とすることで、基本理念の3つの柱をより強固なものへと発展させ、設計へとつなげます。

地域に対する視点

- ◆ “緑のプロムナード”が健康センターと新庁舎をつなぎ、機能連携を図ると共に敷地全体での一体感をつくり出すことにより、防災拠点としての存在感を高めます。

歩行者動線に対する視点

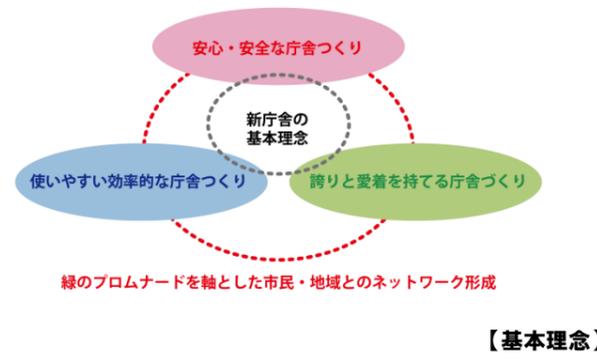
- ◆ 多方面(徒歩・バス・車寄せ・駐車場・駐輪場)からの歩行者動線を“緑のプロムナード”が受け止め、来庁者を迷わせない構成とします。
- ◆ 新庁舎内の縦動線も“緑のプロムナード”に接続することにより分かりやすい施設構成とします。
- ◆ 吹抜けとした“緑のプロムナード”内に大階段を設けることにより「窓口」のある1・2階のつながりを物理的にも視覚的にも強化します。

空間計画

- ◆ 市民スペース等を“緑のプロムナード”に寄り添うように配置し、見通しの良い“オープン”な空間計画を行います。



【緑のプロムナードイメージ】



【基本理念】



【緑のプロムナードがひとをつなぐ】



【緑のプロムナードが交流の場をつなぐ】

2. 市民の方にとって利用しやすくわかりやすい庁舎 庁舎市民機能を低層部に集約配置

- ◆ 合理的な階構成により、災害時に機能発揮すると共に迅速な市民サービスを実現します。
- ◆ 市民の方が多く訪れる窓口課は1、2階に集約し、階移動を減らし、負担なく市民サービスが受けられる庁舎を作ります。

3. 「ひと」「みどり」が主役のグリーンパーク庁舎

市民とのつながりが広がる庁舎

- ◆ 広場や飲食スペースなど市民の方が憩えるスペースを建物内外に計画し、だれもが気軽に立ち寄れる“みどり豊かな公園のような庁舎”をつくります。
- ◆ 市民活動や芸術文化活動などの成果展示など多目的に利用できる市民交流スペースを1階に、市政や市の事業等に参画、協働している市民が会合や情報交換に利用できる市民協働ルームや市民協働サロンを2階に設けます。

清瀬の地域性と環境に配慮した庁舎

- ◆ 市民交流スペースや待合空間は木材を用いた親しみやすい内装とし、家族への愛着や絆の深さを象徴する“うちおり”の縞模様をモチーフとしたデザインを取り入れるなど、温かみのある計画とします。
- ◆ 南北廊下や階段室による通風、各階に大きく設けた窓面からの採光など自然エネルギーを活かし、昼光センサー、高効率機器の採用、太陽光発電やマイクロジェネ等の創エネ手法の検討により、“サステナブルな庁舎”とします。

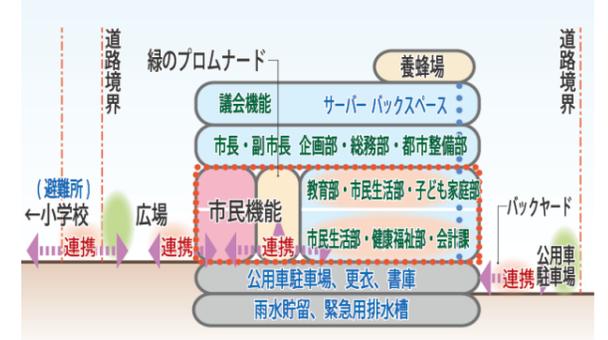
4. ハードからソフトまで心遣いの行き届いたおもてなし庁舎

誰もが安心して利用できる庁舎

- ◆ ユニバーサルデザインに基づく移動経路の確保、窓口には着座式ローカウンター設置の他、多目的トイレ、キッズ・授乳コーナーを適正に設置します。
- ◆ 共用部側に市民出入口を、執務室側に職員出入口を設けた相談室を確保することによって、セキュリティラインを明確にし、執務室内の個人情報を保護すると共に、相談者のプライバシーを守ります。

防災拠点となる安全な庁舎

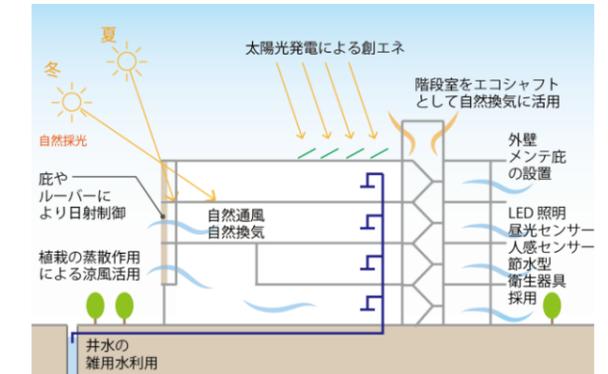
- ◆ 免震構造の採用をはじめ、さまざまな手法を用いて災害時自立システムを確立します。
- ◆ 災害時に備え十分な備蓄倉庫を確保します。
- ◆ 一時避難場所や、災害時の職員仮眠室等を明確に設定しておくことで、突然の災害に備えます。



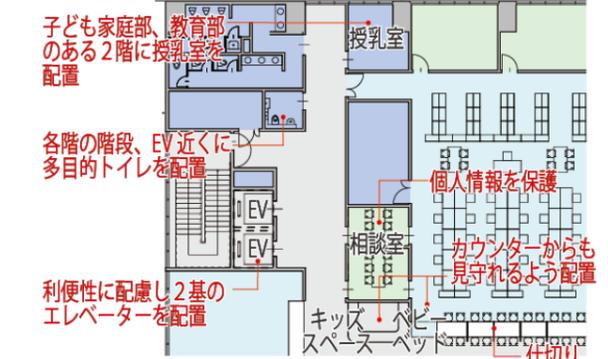
【断面概念】



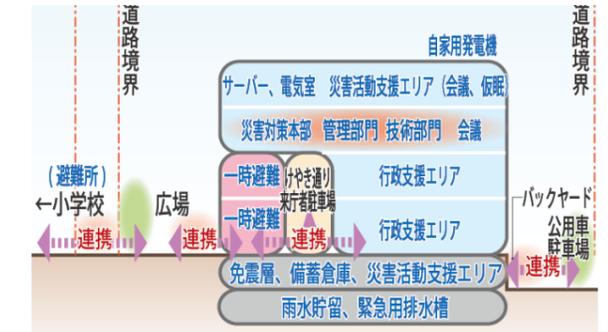
【グリーンパーク庁舎イメージ】



【環境配慮手法イメージ】



【窓口まわりイメージ】



【災害時階構成】